

2024年8月31日

2泊3日の有休をとり管轄地の一つであるサウスダコタ州の西部を旅行した。先ず、日光市と姉妹都市提携25周年を迎えたラピッド・シティに空路で到着。両市とも、風光明媚で観光が主要産業だ。太陽や風雨等の自然が長い年月をかけて造り上げた地層が幾層にも連なるバッドランズ国立公園を訪れた。ワシントン、ジェファソン、Tルーズベルト、リンカーンと4人の大統領の顔が岩に彫られているラッシュモア・メモリアルを訪問。年間200万人以上が訪れるこの場所で、国家元首としての大統領を選出する米国人の心象に思いを馳せた。



バッドランズの荒涼とした風景

ラッシュモア・メモリアル

1 シカゴ民主党全国党大会 (DNC)

6月27日のバイデン大統領とトランプ前大統領のTV討論会。トランプ前大統領暗殺未遂。7月 Wisconsin州ミルウォーキーでの共和党全国党大会。バイデン撤退とそれに続くハリス副大統領の大統領候補指名。この2か月の米国内政の動きはダイナミックだ。

7月のミルウォーキー共和党全国大会に続き、8月19～22日、シカゴで民主党全国党大会が開催された。ヒラリー、バイデン大統領、オバマ元大統領夫妻、クリントン元大統領など、党の結束は図るためか、歴代大統領や大物政治家や人気者の演説が続く。3日目のトリはウォルズ・MN州知事による副大統領候補受諾指名演説、最終日のトリはハリス副大統領による大統領候補受諾指名演説だ。

大統領選挙前半戦（予備選挙）のクライマックスである夏のビッグ政治イベントが終わり、9月最初の月曜日「レイバー・デー」で後半戦（本選挙）の号砲が鳴る。



DNC 会場にて



ウォルズ副大統領候補(昨 12 月)

2 ノースダコタ州とアイオワ州への出張

8月7日、ノースダコタにおける日系関連企業の大豆加工施設の開所式でバーガム知事（共和党）に会った。同施設は、州の食料とエネルギーの両方の観点から重視されている。知事以外に、連邦上院議員、次期連邦下院議員、州の農務長官など州の要人が勢揃い。知事や連邦上院議員の挨拶の中で日本からの投資・プレゼンスに対する評価が表明された。

8月9～10日、アイオワ州のステートフェアに出かけ、レイノルズ知事（共和党）と会談した。このステートフェアは、家畜の品評会や農産品の展示を通じた農業促進の他、他産業、政治演説、様々なエンターテイメントがあり、延べ11日間にわたり120万人弱が訪れる州最大のイベントだ。知事の他に、議事堂で州議会議長と、会場内では、州農務長官、デモイン市長、州民主党委員長などと言葉を交わす機会を得た。



バーガム ND 州知事（共和党）



レイノルズ IA 州知事（共和党）

3 日本語教育の多様性と専門性を考える

8月1日～3日にウィスコンシン大学マディソン校にて開催された日本語教育国際研究大会に参加した。この大会は、2000年からの韓国、中国、日本、米国（NY）、豪州、台湾、インドネシア開催に続き、2018年に初めて欧州（ベニス）で開催。その後、コロナ禍による6年間の中断を経て開催された。世界から500名を超える専門家・教師・関係者が参集。

レセプションでは、元教育者でもあるイーヴァス知事（民主党）が参加し挨拶をした、在マディソン名誉領事が自身の日本留学と日本語学習体験、日本語教育の存続のために尽力した活躍について日本語で語られ、参加者を沸かせていた。

今回、私の挨拶を準備するに当たり、外交的観点から日本語教育・学習を応援することの意義について改めて考えを巡らせた。

「日本語学習は、第一に日本ファンの増加に繋がる。また、将来的にはJETプログラムへの参加や日本留学を通じて日本研究の専門家の育成にも繋がる。さらに、それは日系企業が進出・投資する際の環境整備にもなる」とよく私は言っている。今回、ICJLEの開会式で、ウィスコンシン大学の方の挨拶の中に、より本質的な点が凝縮されていたので、御紹介する。

「言語教育は、人が、自分自身のアイデンティティ・社会・文化を理解し考察する上で、また他者のアイデンティティ・社会・文化を理解し尊重する上で重要」、「言語学習は、人と人が、お互い

を隔てている違いを理解するために不可欠」、「言語教育は、個人的・社会的・文化的な違いを橋渡しし、専門的・経済的・個人的、いふなれば『精神的』繋がりを構築するための比類なき機会を提供」、「言語教育は、グローバル化する世界において、私たちが共に繁栄、発展していくことを可能にする」。



盛況のレセプション



イーヴァス知事



シーボーク名誉領事

4 各地の日本・日系・日米関連団体の集い

8月3日（日）、毎年恒例の「ジャパニーズ・コミュニティ・ピクニック」が開催された。ゲームありカラオケありで、盛沢山。日本人会、日系人、商工会などを含む多くの日本コミュニティ関係者が家族連れ、仲間連れで楽しんでいた。6月に開催されたミレニアム・パークにおける日本祭りがシカゴ市民や観光客に向けたアウトリーチ主眼であるのに対して、こちらは主にコミュニティ内の皆で一緒に楽しむ場だ。

8月18日、ミネソタ州都セントポールにて毎年開催されている夏の「灯籠お盆祭り」に参加した。ミネソタ日米協会、セントポール長崎姉妹都市委員会、コモパークが共催しているが、その他、Sansei Yonsei Kai（日本舞踊）、日系人団体（複数）、日本人会、武道関連団体など、様々な団体がブースを出していた。セントポール市と長崎市との姉妹都市交流は日米間で最古のもの。70周年を迎える来年には、様々な交流が予定されている。

8月31日、セントルイス日本祭りに参加した。3日間で延べ5万人近い参加者が集まり、中西部では圧倒的な規模感だ。今年で諏訪市との姉妹都市交流50周年を迎える姉妹都市関係者に対して外

務大臣表彰と、セントルイス日米協会や日本祭りの運営等で長年貢献してこられた臼井ちかこ様に対する叙勲を、開会式の間をお借りしてさせて頂いた。

各地における、姉妹都市交流がもつ磁力、日本庭園の魅力、名誉領事の貢献といった要素の重要性が改めて指摘される。「祭りを成功させたい、楽しみたい」という皆の共通の思いが、コミュニティ内の信頼感・一体感・助け合いの精神を高め、それによって伝統や文化が継承されている姿に勇気付けられる。参画している多様なアメリカ人・日本人・日系人から、各々の物語をお聞きするのも楽しい。



ピクニック (※)

コモパークお盆祭り

セントルイス日本祭

(※) by Felix Lanier, Tohkon Judo Academy